

高等教育研究センターのあらまし FDのご案内

平成25年度新任教職員の皆様へ



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

高等教育研究センター

センター設置の理念と目的

信州大学の学内共同教育研究施設として、大学における体系的な教育課程の構築を支援するとともに、教育の質保証に係る戦略及び教学関連の施策実施のための手法に係る研究開発を行います。

本センターは、その前身を共通教育を担う教員組織である全学教育機構内の高等教育システム開発部に持ち、従来型の「大学教育センター」等の研究あるいは単なる教育改善支援組織とは異なり、より実践的な臨床研究に基づく高等教育の調査開発と教育の改革・改善およびその支援を行って来ました。その意味で、従来型の「高等教育研究」とは一線を画し、高等教育「実践」研究あるいは、高等教育「イノベーション」支援とも言うべき、会議室や机上から現場に飛び出した戦略的実践を伴う取組を目指しています。これにより、信州大学全体の「新たな」教育力の創生を効果的に支援して行けるものと期待しています。

センターの業務

高等教育研究センターは、2011年4月に設立されました。本センターは、1995年に設置された「教育システム研究開発センター」をそのルーツとし、高等教育システムセンター（2003年）、全学教育機構・高等教育システム開発部（2006年）を経て、今日の形態となりました。主要な業務は以下の通りです。

1. 大学教育に関する研究及び教育手法の開発

高等教育の調査研究を通じて、本学の教育の効果的な実施に資することを目的としています。特色として、その前身が共通教育を担う教員組織である全学教育機構内の高等教育システム開発部であるため、単なる教育改善支援組織ではなく、より実践的な臨床研究に基づく高等教育の調査開発とその支援、会議室や机上から現場に飛び出した戦略的実践を伴う取組を目指しています。

2. 大学教育の質保証に係る施策の企画

戦略的実践を伴う取組の一つとして、学内の教学関係組織と連携して、大学教育に求められている「教育の質」保証に向けた諸施策実施への基盤形成を担っています。基礎的な高等教育研究から、具体的な質保証の方策に関する実践研究まで多岐にわたる調査開発での貢献を目指しています。

3. 教学関連の中期計画に進捗状況の把握及び計画実施の支援

法人の中期計画の内、教学関係の事項について、法人及び各部局で取組まれている計画の進捗状況の把握と、それに基づく計画の遂行に向けた諸施策実施と報告書等関連文書の作成についての支援をしています。また、中期計画に関わる学内外の情報収集、調査研究により、これらの業務への貢献を目指しています。

4. 教学関連の大学情報戦略及び評価対応のデータ集積

大学教育に関わる学内外の情報を収集し、教学関連の施策の実施に向けたデータの蓄積と分析を、学内の教学関係組織と連携して行い、教学関係諸会議に報告しています。国内外の高等教育の最新情報とその分析、Institutional Research (IR) 等の実施に向けた調査研究で、これらの業務への貢献を目指しています。

5. 全学的なファカルティ・ディベロップメントの企画と各部局におけるFDの実施支援

大学教育の質の維持とその向上を目指すとともに、教職員一人ひとりのキャリアの充実を図るFaculty Development (FD) に向けて、学生のみならず教職員についても「楽しく自信を持って生きる賢い個人の形成」を目指す体系的なFDおよびSDプログラムの実施および実施支援を目指しています。

6. 本学が加盟する高等教育コンソーシアム信州における教育活動の推進

大学間連携組織である高等教育コンソーシアム信州の運営およびそこでの教育、FD、学生支援等の活動への貢献を目指しています。さらに、大学間連携に関する国内外の動向調査、コンソーシアムで実施している遠隔教育に関する調査研究により、これらの業務への貢献を目指しています。

また、上記の他、本センターの目的を達成するために様々な業務を行っています。

信州大学FD ポリシー

1. 信州大学は、教育組織としての向上を目指して、教育組織を単位とする授業担当者集団でのFDを重視します。
2. 信州大学は、教員個人としての向上を目指して、研修プログラムを組織的に支援します。

【解説】

- 教育組織単位とは、学部、学科、講座等の教育組織だけではなく、内容的にまとまりのある授業群の担当者集団を指します。
- 教員のキャリアパスを重視した研修プログラムを実施します。
- 個人業績評価との連動を前提に、日常的なFD活動を研修プログラム化します。

平成25年度FD実施計画と説明

新任教員の先生方には、新任教員研修（年度始め＝本日）と、FDカンファレンス（9月中旬・合宿形式）をご用意しております。万障お繰り合わせの上、ふるってご参加ください。

*新任教員研修（4月2日（火））

信州大学の教育理念、大学で取り組んでいる課題、信州大学の学生の特徴など、教鞭をとっていただく上で必要な事柄をご紹介します。

*FDカンファレンス（9月10日（火）～11日（水）（1泊2日））

信州大学の全ての学部から、新任教員と一般の教員とが40人ほど集まり、分科会形式で行う合宿研修です。先輩の教員や同じ新任の先生方と疑問や不安を共有しながら交流を深められ、新たなつながりができると好評を頂いています。

また、高等教育研究センターでは以下のメニューをご用意し、各学部や学科で必要な時にいつでもご利用いただけるようにしております。学部・学科単位ではなくとも、ご希望があれば、5人以上から対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。

*GPA関連…GPA制度導入に際してのポイントや課題

学習を促す評価構造（形成的評価やルーブリックなど）

*教育方法関連…シラバスの書き方（シラバスは2月中旬～下旬に締切）

参加型授業の運営法や学生との接し方など

*研究推進関連…科研費のとりかた（応募の学内締切は10月ごろ）など

*大学運営関連…教員業績書の書きかた（11月から12月に締切）

DPなど信州大学の教育方針の理解

大学の生産的な文化の育成

（男女共同参画・ワークライフバランス・人間関係の維持の方法）など



▲平成24年度FDカンファレンスにおけるグループワークの様子

*その他、学部や先生方のご要望に沿って、ご用意いたします。お気軽にお問い合わせください。

高等教育研究センターでは、全学を対象として、学生の認知構造やプロセスを知るための講演やワークショップを、昨年度に引き続き企画しています（国内・学内講師年4回）。日程が定まり次第、ホームページ上でお知らせいたします。ぜひご参加ください。

★FDに関するお問い合わせ★

加藤善子 katoy@shinshu-u.ac.jp 内線811-7236

センター長挨拶（センター長 小池健一）

2011年4月に発足した信州大学高等教育研究センターは、全学的なFDの企画と各部局におけるFDの実施支援を重要な業務のひとつとしています。FDはFaculty Developmentの略で、教員の職能開発と訳されています。信州大学もFDの定義を定めていますが（「信州大学のFDポリシー」をご参照ください）、センターではFDをより包括的に、広義にとらえなおし、すべての先生が信州大学で誇りを持って仕事をし、充実した毎日を送ることのできる大学文化・職場文化の育成に貢献することをより大きな目的として決めました。私たちが大学として直面している様々な課題に対し、私たち教職員のすべてが主体的に参加し、議論し、意思決定していくための支援をはじめ、学部や学科、またそれぞれの先生方の直面されている課題に個別に応じる支援も始めました。関係者全員が張り切っていますので、よろしくお願い申し上げます。



矢部 正之（副センター長/教授）

副センター長の矢部です。元々の専門は物理学（原子核理論）ですが、センターでは情報通信技術（ICT）を活用した教育の質保証を中心に、高等教育のイノベーションに向けた調査、研究開発をしています。この分野への関わりも長く、今年で創立15周年を迎えるコンピュータ利用教育関係の学会（CIEC）に、設立当初から関わってきました。この分野に興味のある方は、ぜひご一報を！

加藤 鉦三（教授）

信州大学を卒業・修了した学生が『楽しく自信を持って生きる賢い個人』として社会で活躍できる、そういう信州大学にするべく教職員と学生が心と力を合わせて進んでいく。もしそれが実現できたらそれはものすごいことです。そのビジョンを現実のものにするために、自分は何ができるんだろう、何をしなければならないだろう、ということから出発するというのが私自身の指導原理です。とは言いつつ、とりあえず山雅の目先の一勝がほしいです。



加藤 善子（准教授）

ご着任、おめでとうございます。信州大学の先生方は出身も経歴も個性も様々で、多くの先生方と知り合うことができるFDの仕事は、とても刺激的で幸せなものだと思っています。私は初年次教育や高等教育論を専門としています。これから色々な機会にお世話になるとと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

★高等教育研究センターのウェブサイトをご活用ください★

高等教育研究センターの活動紹介、イベント情報はもちろん、学外の高等教育に関する情報や高等教育に関する用語解説、Q&Aのページもありますので、ぜひご覧ください。FDの開催報告や配布資料も随時掲載しています。

また、ウェブサイトでは、本センターで所蔵している高等教育に関する書籍を検索することができます。書籍は閲覧・貸出が可能ですので、利用を希望される場合はお問い合わせください。（<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/rche/>）

